令和４年度学校評価について（中間評価）

本年度の重点目標	1　個に応じた指導の工夫・改善及び授業力の向上 2　自立と社会参加を促す教育活動の推進 3　「笑顔」のある安心・安全な学校づくり 4　関係機関や保護者等との連携による教育活動の推進 5　センター的機能の充実 6　仕事の効率化、勤務時間の適正化を図る		
項目	重点目標	具体的方策	中間評価
小学部	1　離れた場所で学習する児童同士が、ともに学び合える環境をつくります。 2　体験的な活動や人との関わりを通して、豊かな心を育てます。	1　同時双方向型通信や協働学習用アプリケーションを活用した学習をさらに推進します。 2　外部資源も積極的に活用しながら、より多くの経験ができるような学習を計画します。	1　本校、ベッドサイド学級、名大病院、児童宅など、様々な場で学ぶ児童が同時双方向型通信によって一緒に学習しました。引き続き、学習のねらいに応じて、友達と学ぶ場を積極的に設けます。 2　校外学習、国際交流会、外部講師を招いた畳作り講座など、後期に向けて様々な体験活動を計画しています。石ヶ瀬小学校とは年２回の交流会以外に、両校の休憩時間に児童同士が交流するという、新たな形でのオンライン交流を行う予定です。
中学部	基礎的・基本的な学力の習得を確実に行うとともに、集団で活動する中で、自らの課題に気付き、個性の伸長を図り、他者とよりよい人間関係を築く力を育みます。	1　生徒の実態や学習状況を適切に把握し、学習集団を工夫するなど、きめ細やかな指導を行います。 2　ＩＣＴ機器を活用し、校内教育、ＢＳ学級、施設内教育学級で同時双方向型通信を使った授業を行い、集団で学び合う環境づくりをします。 3　集団活動の中で、対話的、協働的な活動を設け、自分の意見を発表したり合意形成したりする経験を、多くの生徒ができるよう支援します。	1　生徒の入院予定や学習状況を把握し、それぞれの実態やニーズに合わせて、担当教師や学習集団などに配慮し、生徒が学習しやすい環境となるよう工夫しています。 2　部集会や道徳の授業などで、ＩＣＴ機器を活用した同時双方向型通信を使い、集団で学び合う環境と対話的な活動の充実に努めています。 3　病気療養等で登校できない生徒と同時双方型通信でつなぐオンライン学習について、生徒の実態に合わせて実施しています。オンライン学習や登校を増やしていけるように、短期的な目標を設定しながら支援を継続していきます。
高等部	1　各教育課程の指導内容及び指導方法について検証し、改善を進めます。 2　自己実現を目指し、集団の一員として生きる力を身に付けます。	1　生徒一人一人の実態を的確に把握し、授業力の向上及び適切な指導が実施できるよう、高等部職員全体で共通認識をもち、研修に努めます。 2　社会へ出ることを見据え、挨拶や言葉遣い、他の生徒への思いやりなど、人との関わり方を学べるように学校生活の中で支援・指導します。 3　集団での活動場面において、実態に応じた役割分担や他の生徒との協働を意識し、生徒が達成感や成就感を味わえるように指導します。	1　高等部会、また部内研修会において都度生徒一人一人の情報交換をし、指導についての共通理解を図っています。 2　ＳＴや授業の始まり終わりに、必ず姿勢を正して挨拶するよう徹底するなど、人との関わりを意識した学びに努めています。 3　活動内容によりグループを都度編成し、実態に合わせた学習ができるよう努めています。
施設内教育 名大 藤田 中京	児童生徒が安心して学べるように、保護者及び医療機関との連携を保ち、個に応じた指導の工夫と充実に努めます。	・保護者、病院、前籍校等と協力し合って学習環境を整え、児童生徒の実態に合わせた学習保障に努めます。 ・児童生徒の進路の参考とするため、病棟に入院している高校生の学習状況について情報を収集し、進路指導に活用していきます。	・病棟や保護者、前籍校や本校、訪問教育等と逐次連携を図り、児童生徒の実態把握をしながら学習環境を整えています。 ・病気療養中の高校生支援に関わる医教連携コーディネーターや、病棟のソーシャルワーカーと連携をとりながら高校生の学習状況の情報収集を継続しています。
訪問教育	・児童生徒の思いを受けとめ、一人一人の実態に応じた授業の実施に努めます。 ・病院等の関係機関との連携を密にし、児童生徒が安心して学べる環境作りに努めます。	・児童生徒の特性や学習の状況、病状を的確に実態把握して授業を実施します。 ・電話やメール、また連絡ノート等を活用し、病院等の関係機関との情報交換を積極的に行います。	・児童生徒の心理的な状態や病状等の実態に応じた授業作りに努めています。引き続き、児童生徒の状況に応じて授業改善を続けていきます。 ・感染症への対応等、関係機関との間で課題が生じた場合には、すぐに連絡を取り合い、課題を早期に解決することができるように努めています。引き続き、連絡を密に取り、より良い関係の構築に努めていきます。
総務部	1　魅力ある教育活動の情報発信に努めます。 2　保護者にとってより有意義になるようにＰＴＡ研修会やＰＴＡ活動を進めます。	1　本校、施設内、訪問教育と連携を図り、学校だより・校内掲示等を利用して、活動や取組について具体的に発信していきます。 2　保護者のニーズと照らし合わせながら、ＰＴＡ研修会やＰＴＡ活動の内容を企画・検討していきます。	1　学校だより・校内掲示では、学校生活の様子が伝わるようにレイアウト、コメントなどを工夫しています。運動会が３年ぶりに開催され、その様子を校内に掲示することができました。後期は文化祭があるので児童生徒の様子が伝わるように取り組んでいきたいと思います。 2　昨年度のアンケートの結果をもとにＰＴＡ研修会の内容を決めました。ＰＴＡ研修会「進学や就職にむけて」では、卒業生や就業・生活支援センターの方の講演を聞き、質疑応答も活発にされ、

			有意義な時間となりました。今後も保護者と一緒に内容を検討しながらＰＴＡ研修会やＰＴＡ活動の充実を図っていきたいと思います。
教務部 自立活動	・ＩＣＴ機器を活用し、教育効果を高める授業の実践を行います。 ・児童生徒が自己の自立について考えると同時に、自立に必要な力を教師とともに考え、主体的にその力を身に付けることができるよう支援します。	１　協働学習用アプリケーションを積極的に活用し、集団で学び合う機会の充実に努めます。 ２　オンライン授業の取組を振り返り、授業実践や評価方法などを分析して今後の授業に役立てます。 個別の教育支援計画を基に、個々の目標や活動内容が実態に適しているかを児童生徒の心身の状態を踏まえて検討し、自己理解を深めたり、自己管理の力がついたりするような活動内容の工夫を行います。	・　夏季研修では、各部で取り組むオンラインを活用した授業実践について紹介し、情報共有を行いました。 ・離れた場所で学習している児童生徒同士が意見交換ができるように、ＩＣＴ機器の使い方について各部で工夫して、授業改善に努めています。 ・ワークシートを活用し、児童生徒が自ら目標を立てて活動を行い、最後に目標への達成度の確認をできるようにしています。自立活動の時間がさらに効果的なものとなるよう、後期に向けて活動内容や支援方法の見直しを行う予定です。
生徒指導部	児童生徒が安心・安全に関する様々な課題に関心をもち、主体的に安心・安全な生活の実現を目指すことができるような学校づくりに努めます。	１　避難訓練や定期的にシェイクアウト訓練を実施し、児童生徒の防災への意識を高めていきます。 ２　不審者対応訓練を実施し、緊急対応マニュアルの見直しをします。 ３　毎週、各部会で児童生徒の情報交換を行うとともに、年２回、児童生徒を対象とした「心のアンケート」を実施します。	１　昨今は新型コロナウイルス感染症の影響により、シェイクアウトと防災学習のみでの実施でした。今年度は現在までに避難も含めた訓練を二度実施し、防災における危機管理意識の向上を図っています。また、シェイクアウト訓練を複数回実施する計画を立てており、自ら身を守る習慣を身に付けられるよう努めています。 ２　警察署員を招いた研修を行う予定でしたが、防犯における危機管理について職員全体が受け身ではなく、主体的に学ぶことを目指し、生徒指導部職員が学校の実情に合わせた研修を企画・実施しました（警察署には研修会の内容や様子をお伝えし評価していただきます)。職員の危機管理意識向上に伴い、緊急対応マニュアルの見直しと効果的な不審者対応訓練の在り方を職員全体で検討し、子どもたちの安全を支えられるよう取り組んでいきます。 ３　各部会で児童生徒の情報交換を行い、「心のアンケート」の結果を職員間で情報共有することで、いじめの早期発見に努めています。各授業場面や人権週間などを通して、子どもたちが自身や友達のことを大切に感じることができるよう他分掌と連携しながら、いじめの防止に取り組んでいきます。
保健体育部	教育環境の整備や安全指導を充実させ、児童生徒の健康管理を適正にし、安全で安定した学習ができるような環境作りと保健指導の充実に努めます。	１　児童生徒の健康状態の把握や事故防止に努め、児童生徒個々に応じた緊急時の対策等の情報を職員に周知徹底し、共有しながら、より安心で安全な教育環境を整えます。 ２　医療的ケアや食物アレルギー対応の実施については、保護者や関係する機関との連携を深める中で、児童生徒や教職員が、お互いに安心して学校生活を送ることができるように支援します。 ３　日常の健康と安全に対する意識を高め、家庭や病棟と連携を取り、感染症対策や食習慣の重要性を周知していきます。	１　消防士による心肺蘇生法、AED の扱いの研修をコロナ感染症予防のために「３密」を避けながら対面とリモートで実施しました。演習を伴う研修なのでコロナの感染状況をみながら来年度は対面での実施をしたいです。朝の職員打ち合わせにて、熱中症警戒やコロナ感染症対応のお知らせを随時行ったことで、各職員の意識が高まり、児童生徒への水分補給、常時換気等、十分な配慮を行うことができました。 ２　医療的ケア、食物アレルギーについては、各部会や委員会等で、安全を最優先した取組となるよう検討し、その情報を全校体制で共有しました。 ３　感染症対策として、登下校時の検温の実施、手洗いの励行及びマスクの着用の依頼、各教室への消毒液の配付及び毎日の消毒拭き取り作業の計画及び実施、密にならないような給食時の座席配置、体調不良者が休養できる部屋の確保等、マニュアルを作成し、管理職や他の分掌と連携を取りながら対応しました。

進路指導部	児童生徒の実態と児童生徒・保護者のニーズを踏まえ、適切な進路決定に向け進路指導の充実に努めます。	1　キャリア教育ノートの活用やキャリアパスポートの系統的な運用等、キャリア教育の充実を図ります。 2　学年や教育形態に応じて説明会や懇談等を実施し、情報の提供や進路決定に向けた課題や支援方法について共通理解を図ります。 3　希望する進路先・居住地関係機関との連携を図り、情報提供することで児童生徒への理解を深めていただくよう努めます。	1　今年度は、昨年度からさらにキャリア教育ノートの活用を促すために「キャリアの日」を設定し、系統的な運用を促しています。 2　中学部では、令和５年度入試からの受検制度改革についての情報提供等を、生徒・保護者ともに進路説明会等で行いました。さらに周知を図っていきます。高等部では、保護者に対し進路について、説明や相談ができる機会を適宜設けました。 3　企業や福祉施設、専門学校等に、本校と生徒の実態を説明して情報の共有を行いました。引き続き進路先との情報交換を行い、お互いの理解を深めていきます。
教育支援部	児童生徒の実態や一人一人の教育的ニーズに応じ、きめ細やかな支援を行うため、教職員研修の充実を図ります。各関係機関との情報の共有化、連携の充実を図り、病弱特別支援学校としてのセンター的機能の推進に努めます。	・夏の研修会を計画、実施し、適切な支援につながる教職員の資質向上を図るとともに、研修の一部を地域の教育関係者に公開します。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと協力し、校内支援の充実を図ります。	・夏季研修では、「オンラインを活用した授業実践」、「自立活動の実際」、「スクールカウンセラーの役割」等の研修会を実施しました。「オンラインを活用した授業実践」は各部の授業実践を紹介しました。公開研修としたことで、地域の先生方の参加があり、他校とも情報交換ができました。 ・スクールカウンセラーへの相談方法を提示したり、SC だよりを発行したりする等、支援に役立つ体制づくりを進めています。
教育情報部	ＧＩＧＡスクール構想によるＩＣＴの環境整備を活用し、これまでの実践とＩＣＴを活用した授業への取り組みを学校全体で進め、児童生徒の学ぶ力、教師の指導力を最大限に引き出す取り組みを進めます。	1　コラボノートなどの教育系クラウドの環境を整え、本校や施設内教育、訪問教育で教育を受ける児童生徒への学びの保障ができるようにします。 2　ＩＣＴ活用力の向上を図るため、マニュアルや設定動画を作成し、職員のオンラインアプリ等のスキルが向上するように環境を整えます。 3　校内ネットワークの整備や運用を行い、職員や児童生徒がより快適に学習に取り組める環境を目指します。	・訪問教育や高等部、施設内教育でも教育系クラウドを活用した授業が増えてきています。環境を整えるとともに、より便利な使い方について発信する必要があります。 ・校内でよく使用するものについて、マニュアルを作成しました。今後はより活用してもらえるよう、広く職員に伝える必要があります。また、職員の意見を聞いて、必要なマニュアルを今後も作っていく必要があります。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		1　個に応じた指導の工夫・改善及び授業力の向上ができたか 2　自立と社会参加を促す教育活動が推進できたか 3　「笑顔」のある安全・安心な学校づくりができたか 4　関係機関や保護者等との連携による教育活動が推進できたか 5　センター的機能の充実ができたか 6　仕事の効率化、勤務時間の適正化に努め、教職員のメンタルヘルスを保持することができたか	